

米山奨学金終了奨学生 終了式

2月17日、日曜日、ガバナー事務所のある相澤第一ビルにおいて米山奨学生の終了式と懇親会が開催されました。

今年度第2780地区では、30名の米山奨学生を支援し、内9名は継続給付の申請が受領されました。21名の終了生を含む28名の米山奨学生と20名のカウンセラーが終了式に出席されました。

カウンセラーを代表して池亀会員は、「奨学生の方々は、健康第一で、一生懸命勉強し、学友としても絆を保ってください。そして、ロータリアンには、何でも恥ずかしながら相談して下さい。また、カウンセラーは、お世話した奨学生



との絆を持ち続けてください。一生カウンセラーであり続けてください。学友には将来、ロータリアンになれる様に頑張ってください。そして両国の架け橋に成って貰いたいと思います。」とお話をされました。



茅ヶ崎中央RCが世話クラブとなった張さんは、スピーチで、「1年間お世話になった方々に感謝をいたします。そして、過去の一年は、就活から進学に変えて、ロータリー米山奨学金のお陰で、時間をもっと有効に活用でき、進学の準備をしっかりできるようになりました。大学院に入って限られた2年間を精一杯で資格取得を集中し、公認会計士になれるように努力していきたいと思っています。さらに、ロータリアンの方々と親密な関係を築き、人生の経験が豊かになりました。今後、社会に出ても、ロータリーの『奉仕の精神』を忘れることなく、学友としてロータリー米山の奉仕活動を続けていきたいと思っています。」と颯爽と挨拶をされました。

張さんは今後も、「同期の留学生、米山奨学生と連絡を取りながら良い関係を築き上げていきたいとおっしゃっていました。そして、世界の架け橋となる為に、将来の目標は、大学院卒業後、ある程度の社会経験を積み重ねて、機会があれば、自分の会社を立ち上げたいと考えています。日本に來ている多国籍の人材を受け入れて社会に自分の力で貢献しようと思っています。」と語ってくれました。

カウンセラーも務め、米山奨学・学友委員会に出向もされている倉知会員の印象は、終了式をむかえる奨学生の日本語力の向上に感心をされたそうです。また、通年1~2名の大学の指導教官が5名も出席され、また、例年より多い各クラブのカウンセラー・会長の参加に、今年の絆を感じられたと感想を述べてくれました。

茅ヶ崎中央RCでは、これからも張さんを支援してまいります。



江の島クリーンアップで 花火大会で
張さんとの思い出

